The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	グローバル化の過程における食、環境安全、農村の持続可能な生活 ： 中国雲南省の松茸貿易を事例に
Author(s)	呉, 於松
Citation	GLOCOLブックレット. 2013, 10, p. 133-140
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/48334
rights	
Note	

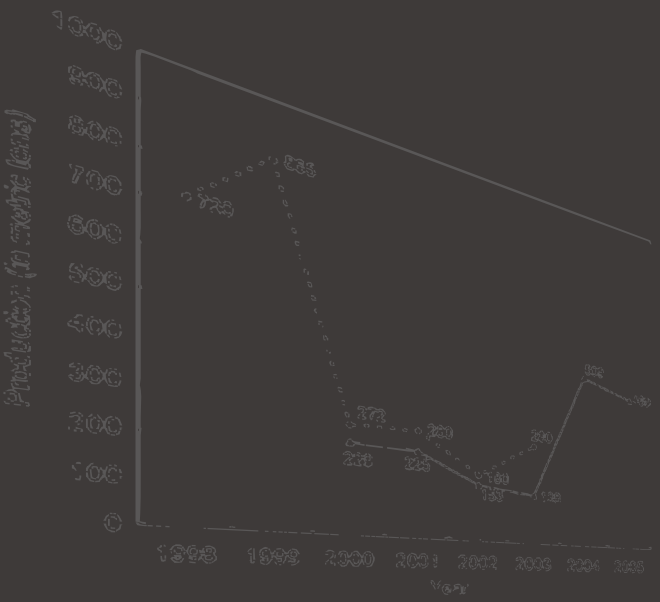
The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【第2部】

学生及び教員の活動・研究報告（中国）



グローバル化の過程における食、環境安全、農村の持続可能な生活
中国雲南省の松茸貿易を事例に

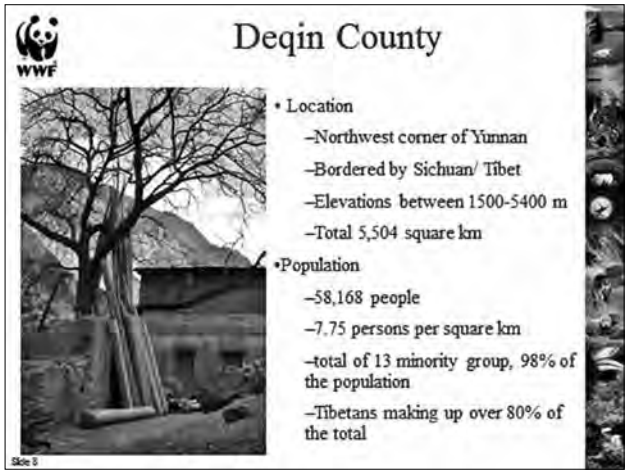
吴於松 雲南大学・農業開発センター・WWF雲南オフィス代表

中国では「食は必要不可欠なものであり、食の安全を第一に考える」と言われる。食の安全は生活の基層にあり、「グリーン食品」や「有機食品」などの消費量は増加傾向にある。グローバル化の進展に伴い、食品の生産供給網は部門、地域、国ごとに分別化されている。日本の食品が、中国雲南省の寒村が原産の輸入品である可能性があるのだ。

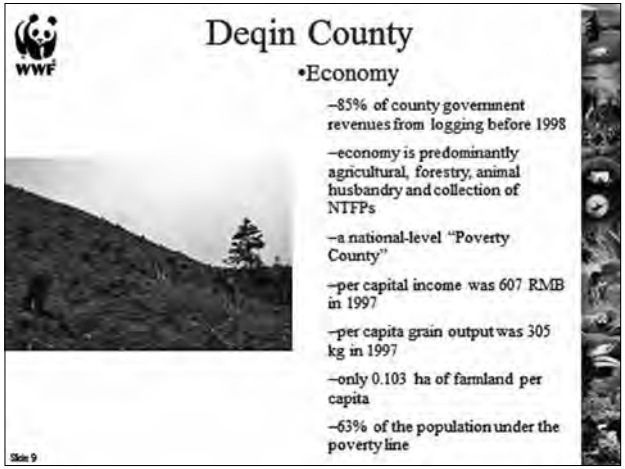
それは雲南省デチェン(徳欽)県に始まり、グローバリゼーション、食の安全、環境安全、地域の生活間の密接な関係性を示唆している。

パワーポイント資料1

デチェン県は雲南省北西端に位置する山間の孤村であり、起伏が激しく、多様性豊かな中国南西部温帯林の生態系に帰属する(雲南省の位置及びデチェン県に関する詳細はパワーポイント資料1、2、3を参照)。デチェン県は社会、経済的に貧困な過疎地である。県民7万人は少数民族であり、チベット族が人口の80%以上を占める。不毛な土地であるにもかかわらず、住民らは零細業に依存する。この地域コミュニティにおいて、山林が歴史的に生活必需品、つまり、燃料用の木材、飲料及び灌漑用の工業用水、ヤク放牧用の牧草地、採集や販売用の松茸、



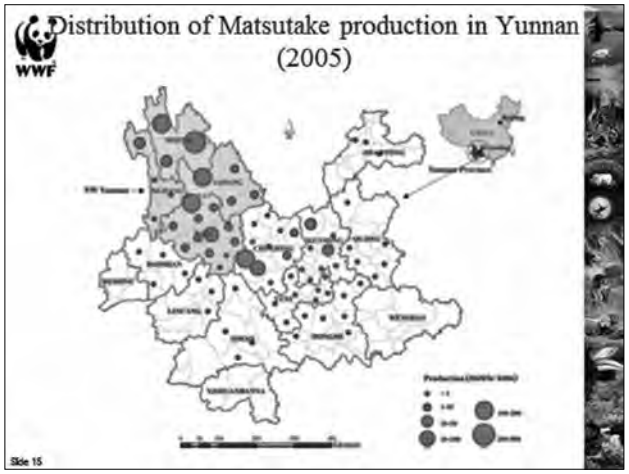
パワーポイント資料２



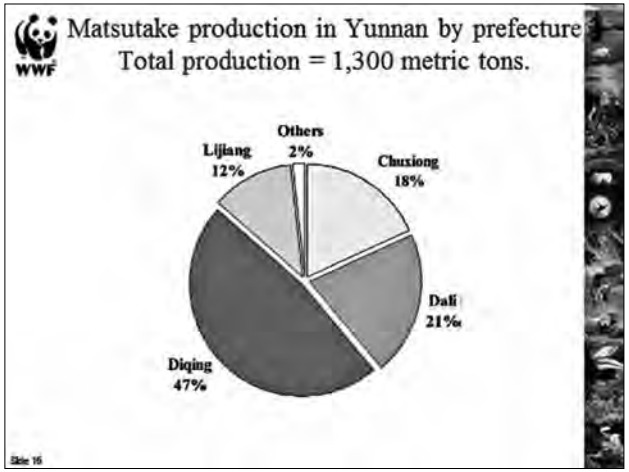
パワーポイント資料３

野生動物などの供給源である。

1999年、空港が建設された。空港のない時代、デチェン県の孤村に暮らす村民が昆明(雲南の省都)へ移動するためには自動車で約3日かかった。だが、現在は飛行機で1時間以内に昆明に到着する。交通の簡便化はデチェン県の村に革新的機会と変化をもたらした。なぜかと言うと、デチェン県には高級キノコ―松茸が存在するからである(雲南及びデチェン省における松茸生



パワーポイント資料４

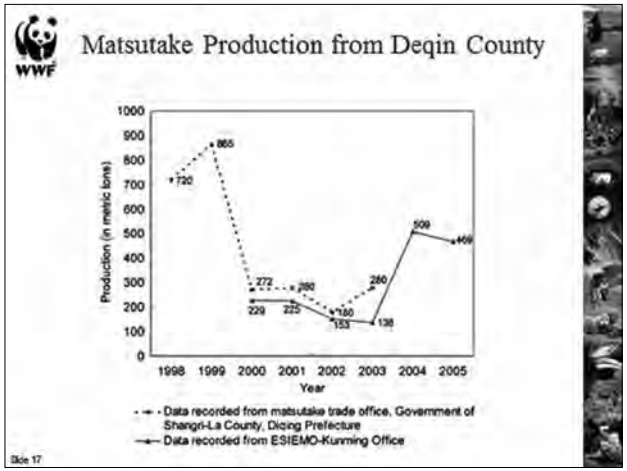


パワーポイント資料５

産に関するデータはパワーポイント資料4、5、6を参照)。

松茸とは、キノコもしくは地上の「果実」、多年生菌類であり、外生菌根菌類の樹木種に属す(パワーポイント資料7を参照)。非常に高品質の松茸は、上等で良質なデチェン県の森林が生んだ宝である。

松茸は旬の食材にこだわる日本人に好まれ、価格は高騰、高級な野生菌として日本に輸入されるようになった。日本における

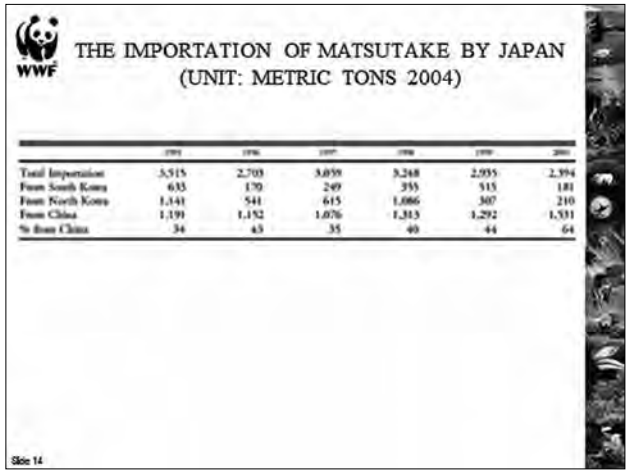


パワーポイント資料６

パワーポイント資料７

松茸の消費量は年間400万kgに及ぶ（パワーポイント資料８を参照）。

雲南が世界でも主要な松茸の生産地であることはよく知られている。交通手段が制限されているため、日本の消費者に新鮮な松茸を提供するのは難しい。最短でも新鮮な松茸は48時間以内に日本市場に到達するが、特に森林伐採が禁じられた1998年以降、収入獲得の機会が極めて制限されており、低収入に悩む



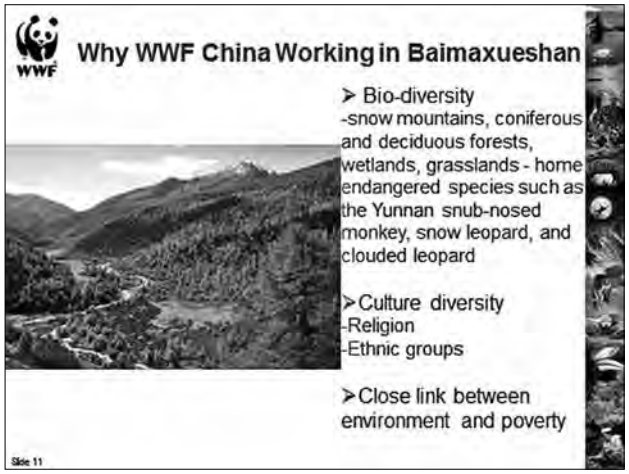
パワーポイント資料８

村の貧困層らに対し、重大な商業的チャンスをもたらした。材木用に木を伐採する仕事を失った村の人々は非材木生産、例えば松茸採集へと転職した。

自由市場原理と慣習に適した制度は多くの点で上手く機能した一方、いくつかの問題が指摘されている。まず、伐採後の森林再生に向けた試みは、ほとんどなされていない。松茸の生息圏保護、松茸の生産性向上が優先されているためである。収入獲得を急ぐあまり、地域の人々は極小で未成熟な子実体（高さ5cm以下）を採集する。このような過剰な採集の結果、松茸を採掘しなければならなくなった。1999年～2001年のわずか3年間で、ほとんどの松茸が根こそぎ抜き取られてしまったのだ。また地域の人々によると、山で松茸を見つけるのは難しく、キノコ採集による収入があらゆる地域で減少しているそうだ。

松茸は絶滅危惧種ではないものの、中国では保護対象（国家レベル2）に指定された。雲南では、松茸による収入高がどの輸出農産物や非材木製品中、第1位を誇る。2005年、松茸の輸出による収益は4400万ドル以上に上った。

WWF（世界自然保護基金）中国支部はデチェン県における保護活動を開始し、2001年より地域コミュニティとの共同で持続可能な松茸管理を促進している。なぜならこの地域は世界的に見ても地理性や民族性ともに非常に豊かであり、生物の多様性と文

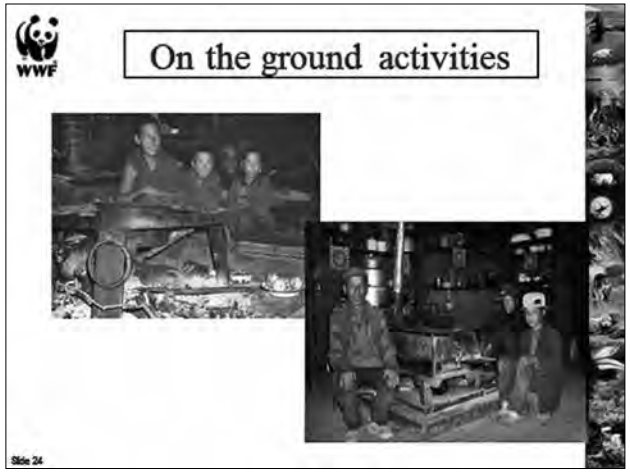


パワーポイント資料９

パワーポイント資料10

化的多様性に富むからである（パワーポイント資料９を参照）。保護・開発プロジェクトは地元の政府当局及びコミュニティに導入された。このプロジェクトの新たな構想と手法は松茸の貿易、管理、生息圏保護に関わるすべての利害関係者が参加し、地域主体の資源管理、生活向上、生態系保護の「win-win strategy（双方にメリットのある戦略）」を証明する（パワーポイント資料10を参照）。地域、自然保護団体、政府、企業から人々が集結し、

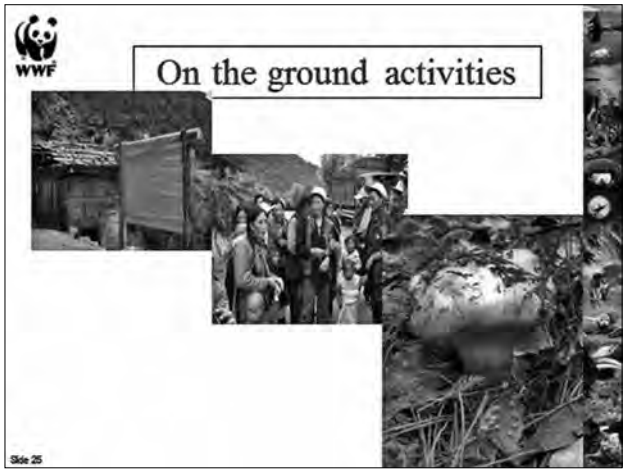
パワーポイント資料11



パワーポイント資料12

連携の道を模索し、生態系の損傷を伴う採集活動の禁止令、規制強化した監視システムの実施を定めた。

プロジェクト開始から２年が経過したが、村民の生活は向上し、地元住民の収入は２倍以上に膨らんだ。自然保護団体と地域住民との関係も改善された。森林は着実に再生され、資源管理における地元のキャパシティも自治も同様に改善された。プロジェクトの影響は連携体制に関与した周辺のコミュニティにも及んだ



パワーポイント資料13

（プロジェクトの成果はパワーポイント資料11、12、13の写真を参照）。

デチェン県の事例より、グローバル化の過程における食の安全、環境安全、農村における生活との緊密なつながりが明らかとなった。生態系保護と人間の消費行動との間には密接な関係がある。この松茸の事例は、我々に高価な一次生産物の供給網と食の安全との関係性に注意を向ける必要性を訴えている。

（岸本紗也加・思沁夫訳）